

當麻寺 特別拝観「あか 灯り莊嚴～LED で拝する當麻寺のみほとけ」

【概要】

奈良国立博物館において開催される特別展「當麻寺—極楽浄土へのあこがれ」にあわせ、當麻寺（奈良県葛城市當麻）では特別拝観「灯り莊嚴～LED で拝する當麻寺のみほとけ」を行います。これは金堂・講堂・本堂（伽藍三堂）の堂内を LED 照明器具によって照らし、国宝や重要文化財の仏像及び工芸品を明るい光の中で参拝いただくものです。今回使用した照明器具（シーシーエス製）は特別展「當麻寺」でも使用されているもので、自然光に近い最新の照明を実現しています。明るい照明のもと伽藍三堂の拝観が行われるのは初めてです。

特別展「當麻寺」には出陳されない金堂の本尊・弥勒仏坐像（国宝、飛鳥時代後期）や四天王像（重要文化財、飛鳥時代後期、ただし持国天像は特別展に出陳中）、本堂の當麻曼荼羅厨子（国宝、奈良時代）、須弥壇（国宝、鎌倉時代）、そして講堂安置の平安時代の諸仏などは、現地、當麻寺でなければ観ることができません。また、境内には国宝や重要文化財の堂塔が軒を並べ、塔頭（奥院、護念院、西南院、中之坊）では四季折々の美しい花が咲く庭園や、優れた文化財を拝観することができます。「灯り莊嚴」は當麻寺の魅力に触れる絶好の機会です。特別展にあわせて當麻寺を拝観し、その奥深い魅力を知っていただければ幸いです。

※「灯り莊嚴」は通常料金で拝観することができます。

【会期】

平成25年4月6日（土）～6月2日（日）

【協力】

葛城市、シーシーエス

【お問い合わせ】

當麻寺奥院 0745-48-2008

【資料】



《金堂の堂内》

飛鳥時代後期（白鳳時代）の国宝・弥勒仏坐像及び重要文化財・四天王像（写真は右より增長天像、広目天像）が安置されています。弥勒仏坐像は白鳳彫刻特有の若々しいお姿を見せていて、照明によってその特徴が一層強く現れています。



《講堂の堂内》

重要文化財・阿弥陀如来坐像、重要文化財・地蔵菩薩立像など平安時代の仏像が安置されています。



《本堂の堂内》

當麻寺の本尊である當麻曼茶羅（現在は貞寧本が奉懸されている）が国宝・當麻曼茶羅厨子に安置されています。厨子がのる国宝・須弥壇は螺鈿で美しく莊厳されていますが、今回低い位置に LED を設置し貝のきらめきを見せています。須弥壇上には阿弥陀如来立像が安置されています。